

## 学科等における教員養成に対する理念・目標・教育課程

学部・学科	外国語学部英米学科
校種（免許教科）	中学校教諭一種免許（英語） 高等学校教諭一種免許（英語）
<p>（１） 学科の理念</p> <p>英米学科は、教職課程設置以降これまでに数多くの英語教員免許取得者を社会に送り出してきた。また、本学科は毎年「英語教員セミナー」という現職英語教員を対象にしたスキルアップのトレーニングを夏休みの３日間を利用して主催してきた。このセミナーは、これまで多くの教員免許取得者を社会へ送り出してきた学科として、卒業後も何らかの形で教育能力向上を目指した研修の機会を提供したいという趣旨で実施している。</p> <p>英語を教えるためには、英語が使用されている地域の言語、文化、社会、歴史なども含めて教えることが必要である。そのため、本学科では高度な英語運用能力を養成すると同時に幅広い専門領域の基本的な知識が習得できるようなカリキュラム編成がなされている。また、教職課程の科目として認定されている科目に加えて、学科の選択科目として英語教育に密接な関わりを持つ科目を多数開講し、英語を教える専門家の養成に心がけている。本学科はカリキュラムを通して以下のような人材を育成することを目的としており、英語教員として望ましい資質を養成している。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 英語で情報を収集し、自らの立場や意見を明確に述べることができる高度な英語運用能力</li><li>・ 英語圏について、言語学、コミュニケーション、英米文学、英語教育、アメリカ研究、国際関係論などの多方面にわたる知識</li></ul> <p>上記のような人材を育てるために、本学科はネイティブ・スピーカーによる授業はもちろんのこと、日本人教員が担当する科目においても、講義・演習など英語で行われる科目を提供している。このような授業を通して、英語を英語で教えるという能力・スキルを養成することが目的である。中学・高校では限られた授業時間で英語習得を促すインプットをいかに多く提供するかが求められるが、本学科はそのために必要な能力やスキルの養成を目指している。</p> <p>（２） 教員養成の目標・計画</p> <p>英米学科は、コミュニケーションの道具としての英語、情報通信社会におけるコンピュータ・リテラシーと深くかかわりを持つ言語としての英語の習得と研究、および「アメリカ研究」など、英語が話される国や地域の文化と社会の研究をすることを重視したカリキュラムによって、英語教員として必要な資質を身につけることができるような教育課程を提供している。</p> <p>英語教員として効果的な授業を行い、習得に役立つようなインプットを効果的に提供し、英語で英語の授業を行うために必要となる基本的な要件が高度な英語運用能力であることは言うまでもない。また、英語教育でメディア教材を活用するためには情報リテラシーも欠かせない。本学科１・２年次の英語教育において学生は、「聞く・話す・読む・書く」という４技能を、ディスカッションやプレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングをとおしてバランスよく練習し、基礎となる英語力を徹底的に学習する。またコンピュータ教室、コンピュータによる授業支援システムを整えたLL教室の授業を通じて、情報通信社会にも十分対応できる活用能力を身につける。</p> <p>グローバルなコミュニケーションの道具として英語が国際語として広く流通している今日において、英語教授者は、英語が使用されている地域（英語を母語とする地域に限らない）の文化全般についての幅広い知識を備えていなければならない。そこで、本学科２・３・４年次においては、習得した英語力を生かして人文科学、社会科学に関する専門的な学問研究に取り組む教育課程を提供して</p>	

いる。言語学、文学、文化研究、コミュニケーション研究、英語教育論、政治、歴史、経済、社会、国際関係などの専門分野において英語をツールとして活用しながら研究を深め、少人数クラス編成による必修の演習科目において卒業論文を作成する。専門的な知識を使って英語で議論し、プレゼンテーションなどを行う授業を通して、英語で物事を考え討論する能力を習得する。また、学科科目として開講している「海外フィールド・ワーク」などの履修によって、実践的な英語の運用能力の向上を目指すとともに、対象地域の社会・文化についての理解を深める契機を提供している。

### (3) 授業科目・教育課程の編成実施（校種・免許教科別に記載）

#### (ア) 中学校教諭一種免許（英語）

英米学科では、免許法施行規則に定める科目区分に基づき、「英語学」、「英語文学」、「英語コミュニケーション」、「異文化理解」の四つの領域について、それぞれ特色ある授業科目を設けている。まず、英語学では、選択必修科目（最低1科目選択）として、「英文法論」、「言語研究の基礎」を配置し、選択科目として「英語の構造」ほか5科目を提供する。英語文学では、選択必修科目（最低1科目選択）として、「アメリカの文学」、「イギリスの文学」、「文学研究の基礎」を配置し、選択科目として「文学理論」ほか2科目を提供する。英語コミュニケーションでは、選択必修科目（最低1科目選択）として、「Academic English A I」、「Academic English A II」、「Academic English A III」、「Academic English A IV」、「Special Topics in English: Language A」、「Special Topics in English: Language B」、「Special Topics in English: Language D」を配置する。異文化理解では、選択必修科目（最低1科目選択）として、「アメリカの歴史」、「アメリカの社会」、「アメリカの政治」、「アメリカの外交」、「異文化コミュニケーション」を配置し、選択科目として「イギリスの歴史」を提供する。それ以外に、教科の指導法科目である「英語科指導法A」、「英語科指導法B」、「英語科指導法C」、「英語科指導法D」の4科目は必修である。

#### (イ) 高等学校教諭一種免許（英語）

英米学科では、免許法施行規則に定める科目区分に基づき、「英語学」、「英語文学」、「英語コミュニケーション」、「異文化理解」の四つの領域について、それぞれ特色ある授業科目を設けている。まず、英語学では、選択必修科目（最低1科目選択）として、「英文法論」、「言語研究の基礎」を配置し、選択科目として「英語の構造」ほか5科目を提供する。英語文学では、選択必修科目（最低1科目選択）として、「アメリカの文学」、「イギリスの文学」、「文学研究の基礎」を配置し、選択科目として「文学理論」ほか2科目を提供する。英語コミュニケーションでは、選択必修科目（最低1科目選択）として、「Academic English A I」、「Academic English A II」、「Academic English A III」、「Academic English A IV」、「Special Topics in English: Language A」、「Special Topics in English: Language B」、「Special Topics in English: Language D」を配置する。異文化理解では、選択必修科目（最低1科目選択）として、「アメリカの歴史」、「アメリカの社会」、「アメリカの政治」、「アメリカの外交」、「異文化コミュニケーション」を配置し、選択科目として「イギリスの歴史」を提供する。それ以外に、教科の指導法科目の「英語科指導法A」、「英語科指導法B」、「英語科指導法C」、「英語科指導法D」のうち、2科目を選択必修としている。